

新宿区民会議 第 2 分科会（健康、高齢、障害、介護）

中間まとめ(たたき台)

平成 18 年 2 月 19 日

1. 議論の進め方

第 2 分科会では、「10 年後の新宿で、私たちはどんな暮らし方をしていきたいのか」「それを実現するためにはどんな課題を解決・改善しなければならないか」という視点にたつて、「健康、高齢、障害、介護」にかかわる暮らしのさまざまな課題について議論してきました。私たちは、まず議論を進めるための枠組みとして、1. 「介護」、2. 「生きがい」、3. 「こころと社会のバリアフリー」という 3 つの大きなテーマを縦軸とし、それぞれのテーマごとに、「個人」「地域」「行政」という 3 つのレベルを横軸として課題や解決・改善の取り組みについて意見出し合いました。

議論は、参加者全員が 5~10 人ほどのグループにわかれ、ひとつのテーマにつき数回にわたって、グループの中で自由に意見を出し合い、話し合いの最後にグループごとに議論のまとめて発表し、それを再度全体として整理していくという方式で行いました。

「中間まとめ」では、議論する中で生まれてきた私たちの共通の意見として、各テーマごとに、まず私たちの「基本的な考え方」を示し、次に新宿の現状とそこから私たちが暮らしの中で感じている課題を整理しました。最後に、課題解決・改善への取り組みについては、その方向性だけを示し、具体的な提言については、最終まとめに向けて、引き続き検討していくこととしました。

2. 今、私たちが感じていること

新宿は、さまざまな生活スタイルや価値観をもち、さまざまな事情を抱えた人たちが暮らす「多様性」を特徴とするまちです。このまちで、誰もが、生きがいを感じながら心豊かに、できるかぎり自立して健康な暮らしをおくれるようにするために、これからの 10 年間、行政と住民がそれぞれの役割をにないながら、一緒になって、どんなことに取り組んでいけばいいのか。それを考えるために、私たちは、まず分科会参加者一人ひとりの個人的な願いと経験を語り合うことから始めました。個人的なことを語りあい、そこから共通の部分を見出し、地域社会全体の目標や課題を見つけ出そうとして議論を進める中で、私たちがまず実感させられたのは、同じ新宿というまちにいらしていても、お互いよく知らなかった部分がたくさんあるということでした。私たちは、よりよいまちをつくっていくためにもっとも大切なことは、人と人の「つながり」であると考えました。そのつながりを作っていくには、何よりも、新宿には実にさまざまな暮らしの形があり、それをよく知り合わなければならない、これが私たちが最初に到達した結論でした。

介護、健康、障害といった問題についても、私たちには知らないことがたくさんありました。介護や高齢について、いくつか例をあげれば、公的介護保険制度ができて介護家族の負担はけっして小さくないこと、高齢者の多数は介護を受けずに暮らしているが、多くの人たちは高齢になっても社会的な負担を増やさないために自分の健康を保つための個人的努力をしていること、一人暮らし高齢者や高齢者世帯が増える中で、引きこもりなどの孤立した高齢者のことを気にかける人が多く、どうしたら社会的なつながりの場に出てきてもらえるかと思案している人が多いこと、若い世代がいなくなり高齢化が進む集合住宅団地で、高齢者同士が地域でのつながりを取り戻すために様々な努力をしていること、などです。また、障害については、仕事をしたい障害者はたくさんいるのに、雇用の現実はきわめて

厳しいこと、障害児と暮らす家族にとって、その子を育てることは負担ではなく、むしろ多くの人とのつながりをもたらしてくれる生きがいになっていること、などです。さらに、生きがいについての議論では、団塊の世代、特に男性の地域での居場所づくりや経験・能力を生かした活動の場づくりを真剣に考えている人が少なくないこと、誰もが気軽に生きがいづくりの活動に参加できるように、もっと身近な地域で、もっと自由に利用できる施設を多くの人が望んでいること、などです。また、新宿に多いといわれるホームレスの人たちと暮らしの場で接する機会の多い住民は、それぞれの立場で、彼らのことを真剣に考えていることもわかりました。

中間まとめでは、それぞれのテーマに関連して出された意見をできるかぎり多く盛り込むようにしました。その中には、それを聞いた参加者が初めて気づかされたことが多く含まれています。私たちは、10年後の新宿のあるべき暮らしの姿とそれに向けての課題をまだ明確に描ききれていませんが、気づかなかったことに気づくことで、新宿の明日を考える共通の姿勢を固めることはできたと、確信をもって言うことができます。より多くの区民の方々に、私たちと同じ「気づき」を経験してもらいたい、「区民会議」だけでなく、もっといろいろな「気づき」の機会をふやしていきたいというのが、今、私たちが一番感じていることです。

1. 「介護」について

- (1) 基本的な考え方
- (2) 現状と課題
- (3) 解決・改善の方向性

2. 「生きがい」について

- (1) 基本的な考え方
- (2) 現状と課題
- (3) 解決・改善の方向性

3. 「こころと社会のバリアフリー」について

- (1) 基本的な考え方
- (2) 現状と課題
- (3) 解決・改善の方向性